

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4271401483		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム やすらぎⅡ		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町牛口名378-2		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・病院へ伊勢腕受診や入院時の緊急対応がとれる。 ・病院にリハビリテーション科があり利用者はリハビリテーションができる。 ・施設の作りが、病院の構造ではあるが職員が装飾をして生活の場を作っている。 ・職員の子供関係で幼稚園、小学校、中学校等との関係があり行事に参加してくれる。 ・近隣の歯科医院とも協力体制を作っているため往診に来てくれる。

医療法人が運営するホームで、建物の1階と2階に診療及び入院施設があり、ホームは3階に位置している。入居者の急な体調変化はもちろん、日々の入居者の健康チェックや理学療法士の助言による機能訓練の視点を取り入れた生活動作など医療との連携体制を整えており、入居者や家族の安心に繋げている。ホームの玄関には職員や訪問者にも分かるよう「いつも笑顔を大切に、居心地の良い暖かな生活の場を提供します」と毛筆で大きく掲示しており、職員は日々理念を意識した介護の実践に努めている。空いている居室のうち2室を減圧室としてコロナ感染対応に備えている。地域行事に入居者が参加したり地域住民と交流する機会は減少したが、近隣小学校とのプレゼント交換や、隣接する系列グループホームと合同で開催する夏祭り、ホームでの敬老会など、できる範囲で工夫しながら取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が見れるような場所に事業所理念を掲示し確認できている。日々、理念の共有に努めて勤務している。実践に繋げるようにしている。	ホームの玄関には職員や訪問者にも分かるよう「いつも笑顔を大切にし、居心地の良い暖かな生活の場を提供します」と毛筆で大きく掲示しており、職員は日々理念を意識した介護の実践に努めている。職員は理念を暗唱することができるなど理念の周知できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	休日は、病院周辺を散歩し近隣住民と触れ合うようにしている。時々、店に立ち寄り饅頭等の買い物をしている。行事には、地域の人達と家族にも参加を呼びかけているが新型コロナウイルス感染拡大防止の為、控えた。十分な付き合いはできていない。	コロナ禍以前は地域ボランティアや小中学生の福祉体験の受け入れなどのほか地域行事に入居者が参加し地域住民と交流していたが、現在、コロナ禍が影響し地域と交流する機会は減少している。尚、近隣小学校とのプレゼント交換や、隣接する系列グループホームと合同での夏祭りや七夕まつり、ホームでの敬老会など、感染対策を講じながらできる範囲で取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を面会に来られた家族様や地域の人々に伝えている。情報交換と情報共有に努めている。症状等も詳細を報告し理解してもらっている。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、面会謝絶にしているので十分な成果は出せなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で活動報告、入退去状況、事故報告、職員の業務等を報告しそこで助言された意見をサービスの向上に活かしている。身体拘束等抑制委員会を設置し対象利用者の身体拘束の状況を報告し意見を求めながら身体拘束の排除に努めている。	運営推進会議は、行政職員、民生委員、家族代表、職員で構成している。コロナ禍により、感染状況に応じて書面会議とした場合は、資料と意見書を送付し意見を求めている。入居者の活動状況や事故報告を報告事項とし、各構成員から出された意見や感想等をまとめて会議録として残し、家族にも郵送し報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議で島原広域の職員に活動報告と事業報告をし指導や助言の場となっている。業務や利用者様についての情報交換をし連携に取り組んでいる。指摘があれば改善するようにしている。	運営推進会議に出席する行政職員(島原地域広域市町村圏組合職員)にホームの活動状況を伝えながら必要な助言等を得ている。また、各種申請などの相談事項は電話や直接窓口に出向いて手続等を行っている。コロナ感染予防等、行政担当者から助言を得ながら行政と協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、管理者および全ての職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束が必要な時は、家族様に状況を説明し書類に記入の上押印してもらい同意を得ている。毎月、モニタリングを行い評価を行っている。変化があれば改善するようにしている。	訪問調査日現在、本人の身体状況等により短時間ではあるが身体拘束を実施している。ホームは身体拘束をしない方針としているが、オムツ外しやケガのリスクなどを考慮し、限定的に拘束を選択している入居者がおり、その場合は、家族へ説明し同意を得るとともに、毎月拘束実施状況を行政に報告している。また、運営推進会議に諮り、意見交換を行っている。	現在、身体拘束を実施している入居者には解除する方向で検討している。引き続き、最短の期間であるか代替方法はないかなど職員間で検討や工夫を積み重ねながら身体拘束をしないケアの実践に繋げていくことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、事業所内で虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。定期的に職員間で情報共有に努めている。入浴時と清拭時に、身体に痣等がないかも確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に交代で左記の研修に参加するように努めている。それらを業務で活かすようにしている。利用者の家族より相談があれば応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定の際は、家族様に十分な説明を行い理解と納得を図っている。その後も、疑問点等があれば適宜、相談に応じるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関にアンケート箱を設置し家族様の意見や要望を運営に反映させている。運営推進会議と外部評価の記録も置き家族や外部の人間にも読んでもらうようにしている。	コロナ禍により感染状況に応じて入居者との面会時間を15分間以内と定めガラス越しで実施している。ホームの玄関にはアンケート箱を設置している。毎月ホームだよりを発行するとともに、定期的に入居者個々の近況写真に担当者がメッセージを添えて家族へ送付しており、家族からも好評を得ている。家族からの要望等は連絡ノートに記入し、職員間で共有している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適宜、意見や提案を聞いている。他にも、生活課題があればその都度、検討するようにしている。改善に繋がっている。	年2回、法人全体で職員の自己評価を行い、管理者が各職員と面談して職員より意見を聞く機会を設けている。また、職員との面談が必要と思われる場合には悩みや相談を聞くよう心掛け、職員間のチームワークや業務改善に努めている。コロナ禍により職員が研修に参加する機会が減少している。	コロナ禍等が影響し、職員の研修参加が減少していることを踏まえ、年間研修を立案して可能な限り職員へ研修参加を促すことが望まれる。また、今年度よりハラスメント対策の強化が求められていることを踏まえ、ハラスメントマニュアルを作成するなど、職員意見を反映しながら職場環境の整備に取り組むことが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準、労働時間は病院本部が管轄している。職場環境の整備と職員の処遇等はできる限りの改善をお願いしている。結果として評価されていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は定期的に法人内の研修を受ける機会の確保を作っているが、近年、コロナ禍で難しい局面が続いている。十分な成果は出せていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響により代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作れてない。ネットワーク作りは他部署と連携して実施している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら各自、安心を確保できる関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に家族が困っていること、不安なこと、要望等を聞くように努めている。その都度、相談にのるようにしている。部署に苦情相談窓口を設置している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体機能を考慮し必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。適宜、他部署との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場として暮らしを共にする者同士の関係を築いている。自立支援と残存機能を意識した関わりを念頭に置いている。できることは、率先して取り組んでもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全職員が本人と家族の絆を大切にしながら支援している。公正中立の関係を築くことに努めている。他部署との連携に努めながら利用者の負担にならないよう家族の要望にはできるだけ答えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた友人や場所との関係が途切れないように支援している。馴染みの人が、面会しやすい環境作りに努めている。面会に関しては、当ホームが病院内にあるということもありコロナ禍で十分な時間が確保できなかった。今後は、少しでも時間が確保できるように努めていきたい。	コロナ禍以前は入居者本人の自宅や墓参りなど馴染みの場所への支援を行っていたが、現在は外出自粛や面会制限を実施している。尚、地域の感染状況に応じて面会時間を15分間以内と定めガラス越しで実施している。理美容はホームで定期的に訪問美容を利用したり、入居者の馴染みの美容室にも通えるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員が利用者同士の関係を把握し孤立しないように支援している。利用者によっては一人の時間も確保し大切にしている。行事やレクリエーションを通して支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所になってもこれまでの関係性を大切にしながら相談と支援に努め関係機関と連携しながらフォローアップを心がけている。適宜、相談に応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方の希望に応じた支援に努めている。適宜、利用者と家族の要望を聞くようにしている。要望等には、できる限り応じるようにしている。本人本位を第1に考えている。	難聴の入居者には職員は言葉掛けのトーンを調整したりその方の表情や仕草から意向を汲み取るよう努めている。意向の把握ができない方には家族にも確認している。包括的自立支援プログラムによるアセスメントにより入居者の生活上の課題を明らかにし、職員間で入居者の情報を共有して支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が各利用者の既往歴と生活歴の把握に努めている。家族が面会に来た時は会話を通して情報収集している。気づき、意見があればその都度、情報交換し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の過ごし方、心身状態、残存機能を把握し支援している。何か支障があれば、その都度、職員間で意見交換をし情報共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の生活課題を考慮した介護計画を作成している。心身の状態によっては、計画内容を変更している。家族にも了承してもらっている。	管理者は計画作成担当者を兼務し、カンファレンスで入居者の課題や、理学療法士より機能訓練の視点を取り入れた生活動作の助言、医師からの指導や助言を得ながら介護計画を立案している。毎月入居者の担当職員による支援経過記録や職員間でのモニタリングを行い介護計画の目標に対する達成度を評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過記録と介護日誌を記入しそれを、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。介護支援経過は、担当職員を決めて記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われずに関係機関と連携しながら可能な限りの柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。各利用者を支える為に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院併設なので急変時は適切な医療を受けられる。入院時は、迅速に対応してもらい毎月、主治医に定時薬の処方をしてもらい適切な治療をしてもらっている。家族にも詳細を報告し安心してもらっている。	現在、入居者全員が同建物内にある母体医療機関をかかりつけ医としている。入居者の受診に際し、建物3階にあるホームからエレベーターを使用し、1階の病院で待つことなく受診できおり、入居者の負担感の軽減に繋がっている。眼科、精神科などの他科への受診には家族が同行している。週1回、訪問看護師が来所し、入居者の健康状況を確認している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、病院の医療連携看護師が訪問し職員の情報や気づきに適切な指導、助言をしてくれる。適宜、受診等を促してくれる。情報交換と情報共有もしている。困ったら相談等にも対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した時は、外来看護師と病棟看護師と連携して情報交換と情報共有に努めている。スムーズに入退院支援ができるようにしている。すぐに家族にも連絡して早期に来てもらうようにしている。詳細を報告し不安を少しでも和らげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期は、病棟に入院となる為、早い段階で家族に説明し納得してもらっている。事前に利用者の状態を説明しておくことで家族にも安心してもらっている。スムーズに入院できるよう病棟と連携を図っている。	ホームでは重度化対応・終末期ケア対応指針、看取りの指針及び緊急時対応マニュアルを作成し、母体法人と連携して対応している。重度化や終末期におけるホームの方針は入居時に家族へ説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時のため職員は、緊急対応マニュアルのもと実践力を身につけて迅速に対応している。他部署との連携にも努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に防火管理者の指導のもと避難訓練と防災訓練を実施し職員は、交代で参加している。地域との協力体制が築けていない。築くように今後、努めていく。法人内の連携は構築できている。	母体の病院、デイケアセンター、隣接のグループホームと合同で避難訓練を実施し、災害時の協力態勢を築いている。重度化した方を想定し、毛布を使用した職員2組の搬送訓練を実施している。有事の際の職員役割分担表をリビングに掲示し周知している。ホームを含む病院全体としてBCP（業務継続計画）を作成しており、今後は運用の訓練が待たれる。	コロナ禍等により避難訓練に地域住民の参加や地域との協力体制を構築することはできていない。例えば、運営推進会議の開催時に合わせて訓練を実施するなど協力を依頼し取り組むことを期待する。また、避難所での円滑な支援に繋げるためにも避難時に持ち出す入居者情報一覧には服薬情報も加えることが望ましい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、一人一人の人格を尊重した言葉掛けに努めている。プライバシー保護も考慮した声掛けを心がけている。職員には、丁寧な声掛けを呼びかけている。	職員は入居者へ視線を合わせ、声のトーンや丁寧な言葉使いに配慮し、一人ひとりのペースに合わせた支援に努めている。職員は入居者の個人情報漏洩に留意し、入職時には守秘義務を遵守する誓約書を提出している。ホームだよりなど入居者の写真を掲載する場合はプライバシー保護の観点から家族より写真掲載について同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、利用者の状態に応じた自己決定ができるような声かけを心がけている。本氏の要望等にも適宜、応じている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、各々のペースを大切に希望に沿って状態をみながら支援に努めている。利用者の状態によっては職員がペースを作ることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各々に合った身だしなみとおしゃれができるように支援と声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には身体状況に応じて食器拭きや洗濯物たたみ等のお手伝いをしてもらっている。皆さん、精力的に手伝ってくれる。とても、助かっている。	食事は早出の職員が調理し、入居者の体調や嚥下状態に合わせキザミやトロミなど食事形態を考慮し提供している。1名の職員が検食を行いながら食事介助を行い、その方のペースで食事が摂れるよう支援している。行事食や誕生会には特別食を準備し、食への関心に繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の状態に応じた摂取量と水分量を確保できるように支援している。習慣に応じた取り組みも考慮している。誤嚥の機能が低下している人には、水分と汁物にトロミを使用している。毎月の採血の結果も考慮し食事メニューに反映している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っている。本人の能力に応じたケアを実践している。咳込みに気を付けている。食事前は、口腔体操を行い口腔機能低下を防いでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援、残存機能を考慮し各々に合った支援を行っている。極力、オムツ等を使用しない取り組みを心がけている。どうしても時は、オムツ等使用している。	職員は入居者の排泄チェック表に記録し、その方の排泄パターンを把握しながらトイレ誘導の声掛けを行っている。夜間はポータブルトイレを使用し、定時での誘導や、入居者の起居動作には鈴の音で対応し、その方の安眠を妨害しないよう配慮している。尿取りパットやオムツについては家族の経済的負担を考慮しながら個々に応じたサイズを購入している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者は、乳製品を飲んでいる。医療連携看護師と連携して下剤の服用を検討し必要な方には服用している。排便が出過ぎるようであれば摘数を減らしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は各々、2回/W以上実施している。バイタルチェックに応じて個々に沿った支援をしている。体調が優れない時は、中止している。交替で無理のないように支援している。	入浴日は週2回午後入浴を基本として支援している。入浴を拒否する方には無理強いせず声掛けや日程を変更等柔軟に対応している。また、必要に応じてシャワー浴や清拭にて対応している。同性介助の希望者には臨機応変に対応している。入浴を楽しめるよう菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々が安心して気持ちよく眠れるように支援している。寝具も職員間で情報交換しながら工夫している。不眠傾向にある利用者には、眠剤を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理している。誤薬等がないように全職員が気がけている。その都度、症状の変化等は、職員間で情報共有している。異変があれば医療連携看護師と相談し中止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かした役割、楽しみごとや気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜日には病院周辺を散歩し地域の人と交流を図っている。買い物にも出かけている。定期的にドライブをしている。今年度も新型コロナウイルスの影響で十分な支援ができなかった。	現在、コロナ禍により外出を制限しているが、好天時にはホーム敷地内を散歩したり、春には手づくり弁当を持参し近隣の公園へ花見に行くなど感染対策に留意しながら外出支援を行っている。コロナ禍以前は法事への参加や外食、外泊などを支援しており、コロナ禍収束後には支援を再開していく意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、家族様が管理している。トラブル等が発生しないようにグループホームでは管理していない。入所時に、事前に家族へ説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる方には各々に合った支援をしている。手紙と年賀状等も記入してもらっている。絵画もしている。レクリエーション活動で漢字の書き取りをして指先の運動の時間としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間であるリビングには、生活感や季節感を採り入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホームは病院の3階にあり、来訪者は体温測定と手指消毒、名簿への記入を行い入室している。ホームの要所には手すりやスロープを設置し、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。ホームのリビング兼ダイニングは、職員が清掃及び消毒を行い、入居者が快適に過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも一人で過ごせたり気の合った者同士で過ごせるような環境作りに努めている。利用者の特性を生かした配置作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れたものや好みの物を持ってきてもらいホームで使用している。	入居時に入居者及び家族と相談し、本人が自宅での延長として生活できるよう使い慣れたものや手回り品を持ち込みを依頼し、居心地良く過ごしてもらえるよう支援している。居室に設置しているポータブルトイレには目立たないよう目隠しを施し配慮している。本人の意向があれば位牌の持ち込みもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、廊下に手すりや浴室前にスロープが設置されており安全に自立した生活が送れるように整備している。毎日、清掃し消毒もして環境整備に努めている。		